**第２２回九州女子ユース（U-15）サッカー選手権大会長崎県予選**

競技上の注意

長崎県サッカー協会　女子委員会

１，本大会は２０１７年度（公財）日本サッカー協会制定のサッカー競技規則及び、本大会の規定により行う。

２，競技規則の遵守し、フェアプレー精神に基づいてプレーすること。

３，審判員の判定は最終である。

４，審判員の批評や中傷を報道関係にしないこと。

５，時間の厳守。キックオフの時間（前後半とも）、又、ゲーム中時間稼ぎをしないこと。

６，ユニホームについて

　（１）ユニホームは、必ず正副２着を準備し、それぞれの色の異なるものを試合会場ま　　　　で持参すること。

　（２）ソックス（ストッキング）の上に巻くテープまたは同様な材質のものを外部に着用する場合、着用するストッキングの色と同じものでなければならない。

（３）ゴールキーパーのトラックスーツ（トレパン）着用については、主審の許可を得　　　　ること。

　（４）すね当ては、用具に含まれるので必ず着用し、ＰＫ方式になった場合も終了まで　　　　はずさないこと。

（５）アンダーショーツを着用する場合は、アンダーショーツやタイツの長さにかかわらず、その主たる色はショーツの主たる色と同じ（同系色は、認められない）で単色とすること。

　（６）パンツに番号を貼付する場合は、背番号と同じ番号をつけること。

７，装身具について

　（１）ネックレス、指輪、イヤリング、ピアス、ミサンガ、その他皮革やゴムでできた

　　　　バンド等、プレーに不必要なすべての装身具の着用は認められない。

　（２）装身具をテープで覆うことも認められない。

（３）髪を止めるヘヤピン等、負傷を誘発するもののち着用は認められない。他方、　　　　　長髪を束ねるためのヘアーバンドは原則認められるが、主審が材質、長さ、幅を

　　　確認し、安全でないと判断した場合は、着用は認められない。

8，ベンチエリアについて

　（１）試合中の戦術的指示は、テクニカルエリアを設置するので、エリア内から、その都度ただ１人の役員が伝えることが出来る。（メガホン等の道具使用は、不可）

　（２）ベンチエリアに入る者は、試合中、常にエリアの中にとどまっていなければならない。

（３）ベンチエリアに入る者が、他のエリア等で試合を分析した後、再度エリア内に入ることは認められない。

（４）監督やチーム役員は、主審が承認した場合、競技者の負傷対応のためフィールドに入ることができる。

（５）ベンチエリアに入る者は、ウォームアップやクーリングダウンのためウォームアップエリアに入ることができる。

（６）判定に対する不服の言動があった場合は、退場させられることがある。

（７）退場を命じられた選手は、ベンチに入れない。

（８）監督およびその他エリアに入る者は、責任ある態度で行動しなければならない。

（９）監督以外の者は、常にベンチや椅子に着席していなければならない（戦術的指示を与える場合を除く）。

9，選手交代について

（１）交代要員、最大７名のうち、5名までが交代できる。

（２）交代要員は、選手証と交代用紙を本部に提出し、主審の許可を得てからフィールドに入り、競技者となる。

10，負傷者の処置について

　（１）主審は、競技者が重傷を負っていると判断した場合、プレーを停止する。

（２）ドクター等および担架のフィールド入場

・ 主審は、治療が必要かどうか負傷した競技者に質問する。

・ 負傷した競技者が治療を必要と答えた場合や主審の質問に答えられなかった場合、主審は２名以内のドクター等のチーム役員(通訳を含む)の入場を認める。

・ 主審は、ドクター等の意見も参考にし、必要あれば担架を要請する。

・ 担架は、主審の合図を受けてから、フィールドに入る（ドクター等と一緒に入場しない）。ただし、頭部の負傷等、緊急な対応が必要と判断した場合、主審はドクター等と担架を一緒に入場させることがある。

・ ドクター等が入場した場合、下記（３）の“例外”を除き、フィールド内での治療は認められず、競技者はフィールド外に退出する（退出を拒んだ競技者は、警告される）。

・ 退出した競技者は、プレーが再開後、主審の承認を得てフィールドに復帰する（ボールがインプレー中は、タッチラインからのみ）。

（３）例外

・ ゴールキーパーが負傷したとき、ゴールキーパーはフィールド内で治療を受けられる。

・ ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが衝突し即座な対応が必要なときは、両者共にフィールド内で治療を受けられる。ただし、ゴールキーパーの治療終了後、引き続き治療が必要な場合、フィールドプレーヤーはすみやかにフィールド外に退出する。

・ 同じチームの競技者が衝突し、即座の対応が必要なときは、フィールド内で治療を受けられる。治療終了後、フィールド外に退出する必要はない。

* フィールドプレーヤーであっても、重篤な負傷を負った場合、フィールド内で治療を受けられる。

１０，競技中の飲水について

　（１）競技中の飲水は、競技の停止中にタッチライン上とゴール裏においてのみ許され　　　　る。水等の入ったプラスチックパックやその他の容器をフィールド内に投入する　　　　ことは禁止されている。

　（２）保冷の効くような硬い容器は使用せず、プラスチック製バッグのような柔らかい容器のみ認める。

　（３）飲水タイムについては、気温その他気象条件を考慮してもうける。（但し、戦術　　　　的な指示を与える時間ではない）

１１，ＰＫ方式について

 　 ＰＫ方式が行われる場合は、競技者は監督の指示を受ける為、或いは飲水する為に１分程度、自分のベンチ前に行くことができるが、ピッチの外へ出ることは許されない。